

3年目の被災地を訪ねて

--北東北 春の旅 1/3--

5/1/2014

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

4月初めに横浜で桜鑑賞後、今年は桜前線の北上とともに、4月22日から北東北で2回目の桜鑑賞ができる旅に出かけました。今回から3回にわたり北東北の旅をご紹介します。

第1回目は、被災地、大槌町、山田町、そして田老町での見聞です。

私は、3.11後に神奈川県ボランティアチームの一員として、5月連休直後から時間を作り、ある時は夜出発の翌日夜帰還のバス強行軍、またある時は山田町の体育館や遠野市の施設で寝泊まりしながら現地でのガレキ処理などの支援をしました。どれもとても印象深い活動でしたが、とりわけ夏の山田町での活動は住民との接触やボランティア仲間たちとの活動を通して大変意義深いものでした。今回の被災地めぐりは、私にとって北東北の旅のメインでありました。

電車が通じている釜石駅まで新花巻駅から約90分。釜石ではレンタカーを借り、一路北に進みました。住宅のあった土地は海岸と山との狭い間にあったため、釜石市鶴住居町や大槌町では、住宅はほとんど津波で流され、家の基礎部分が残っている状態です。そのような中、この土地で目立つのは復旧活動をしている作業員と起重機そしてダンプカーの姿ばかりで、住民はほとんど見る事ができませんでした。多分、高台の仮住まいに暮らしているのでしょう。打ち砕かれた防波堤はそのまま、道は砂埃。そして、復旧に向けて「盛り土」をするための土を確保するため、山の木々の伐採があちこちで行われていました。



大槌町(左側防波堤)

山田町では、被災にあった町民の方が「語り部」を行っていることを聞いていたので、1時間ほど語り部の方の先導で町を一緒に歩きました。語り部の方は町で一軒残っている時計屋さんの奥様でしたが、当時の津波の様子、避難のようすを道すがら話していただきました。当時、ご主人とはバラバラ状態になり、一緒になったのは津波の3日後だったそうです。

写真は、山田駅があった方向を写したのですが、現在では商店を中心に仮店舗でいろいろな店が営業をおこなっており、結構活気がありました。それは、住民の方の生活を守ること、またそこに復旧の作業に来ている人の生活があるからだと思いました。



いつ開通になるのか
不通の山田線

私がボランティアでガレキ処理に行った 3 年前の夏にも、蔵を利用して店をやっている方に会いましたが、住民の生活の必要性に背中を押されて店を営んでいるとのことでした。居酒屋やラーメン屋などの飲食店が中心ですが、今回の語り部の方の時計屋さんに伺ってみました。まさに職人気質のご主人でしたが、偶然にも私は時計をオーバーホールしたいと思っていたので、タイミングよく預けてくることができました。語り部の奥さんとともに、記念に残る山田町での思い出になりました。

翌日早朝には、宮古市の北に位置する「田老町」を訪れました。ここも、大槌町と同じで、住民の姿はなく、残された防波堤と家の基礎部分でした。写真の「たろう観光ホテル」は、震災遺構として保存されるようです。やはり後世に残すものとして目に訴えるものがよいですね。田老町の防波堤は、絶対壊れないという自慢のものでしたが、自然には逆らえないことを目のあたりにしました。写真にある盛り土の高さは約 5m ありそうです。山田町もこのように町全体が盛り土されるとのことでした。



田老町での盛り土



遠くに「たろう観光ホテル」を見る「震災遺構」
手前が壊れた防波堤

山田湾の養殖のイカダ
多くみられるようになったとのこと



3階部分まで津波がきたことがわかります
(たろう観光ホテル)

